

住宅市街地総合整備事業の活用事例

水橋中村地区(富山県富山市)



当地区の中核施設である水橋中村団地は、昭和44年から48年に建設されたもので、築後30年以上経過し、老朽化が著しい状況にありました。

当地区は、市営住宅の建替え、高齢者相談室、民間によるデイサービス施設、公園、周辺道路等の整備により、周辺地区に居住する住民や高齢者が安心して暮らせる住環境の形成を図り、人々が集い賑わい、地域のコミュニティの起点となることを目標としているものです。

田上本町地区(石川県金沢市)



当地区は、金沢市中心部より南東に約4kmほどの浅野川右岸に位置しており、隣接する若松・鈴見地区とともに金沢大学の門前町として発展している地区である。

地区独自のルールにより、周辺の恵まれた自然環境との調和を図りながら、景観にも配慮し、良好な居住環境の創出を図り整備したものである。

相木地区(石川県白山市)



当地区は、JR松任駅の北西約2kmの平坦地に位置し、昭和45年以降に公営住宅及び戸建て住宅が一体的に整備されてきた住宅地区である。

当地区の整備にあたっては、市営住宅の建替により、耐震・耐火性能に優れ、多様なニーズに対応した良質な住宅を供給するとともに、地域住民に開放された緑地、広場を整備することにより災害時における周辺住民の避難場所を確保し、安全で快適な住宅市街地の整備したものである。